

学級経営について 総括

令和4年3月8日（火）

研究主任 益戸

1. 令和3年度の総括

今年度も、H27年度から積み上げてきた取組（フリートーク・ほめ言葉のシャワー・価値語・成長ノート）を継続して取り組み、校内研究において、定期的に取り組み状況の確認や共有、改善策等を協議することができた。また、4つの取り組みをさらにブラッシュアップさせ、児童自らの力で互いを高め、豊かなコミュニケーション活動を行う土台を育む人間関係を育成し、個々の児童の成長や学級全体の成長につなげることができた。

また、「自己他者肯定感テスト」における「自己・他者肯定群」に位置する児童が年間3回平均82%と、検証指標の目標を達成することができた。年間を通して、各学級担任が、取組の意義を確認したり取組方を見直したりすることで活動が高まり、豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成へつながったと考える

2. 5点セット

校内研究テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標	豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成
達成指標	(1) 「自己・他者肯定感テスト」において、「自己・他者肯定群」に位置する児童が全体の82%以上 →7月の結果は、平均が81% →年間3回の平均が82% (2) 指導教諭等を中心とした「学級経営観察シート」の平均が3.0点以上
重点的取組	(1) 4つの取り組みのブラッシュアップ及び相互に関連付けた取り組み ①フリートーク ②ほめ言葉のシャワー ③成長ノート ④価値語 (2) 指導教諭等による朝の会の参観
取組指標	(1) 4月の研修で、4つの取組を相互に関連付ける取り組みについて、昨年度までの取り組み例を伝え合ったり、昨年度までの課題を確認したりして、今年度の取り組み方について共通理解する。8月の研修で、学年ごとに7月までの成果と課題をまとめ、後期に向けてブラッシュアップする。 ①4月にフリートーク公開・事後研を行い、フリートークのねらいや取り組み方について、共通理解をする。学年内で児童が互いにフリートークを見合い、ブラッシュアップさせていく。前期後期に各1回ずつ、研修にて各学級の取り組みについて振り返り、改善していく。 →フリートークの公開・事後研、現状報告や困りの出し合い、学年に応じた目指す姿と価値付けの方向性確認等を行った。 →7月に、フリートークの進捗状況について、学年部の中で情報交換を行った。 8月の校内研修の中でブラッシュアップを図り、改善へつなげる。 →8月に、フリートークについて、改善策を整理し、後期の取組方について検

討した。ブラッシュアップの視点をもとに各学級・学年が連携しながら取組を進めた。3月に、フリートークのねらいに沿って成果・課題をまとめ、次年度の方向性を検討することができた。

②ほめ言葉のシャワーについて、6月の研修でねらいや取り組み方について共通理解し、6月以降に実施していく。取り組み方を工夫し年間で2巡できるようにする。後期の研修で、各学級での取り組み方（1巡目・2巡目のやり方、板書の仕方、教室掲示等）を持ち寄ったり課題や困りを出し合ったりし、改善していく。

→6月に、ほめ言葉のシャワーの公開・事後研を行い、ねらいや取り組み方について共通理解することができた。

→7月に、ほめ言葉のシャワーの進捗状況について、学年部の中で情報交換を行った。8月の校内研修の中でブラッシュアップを図り、改善へつなげる。

→8月に、ほめ言葉のシャワーについて、改善策を整理し、後期の取組につなげた。1月に、ほめ言葉のシャワーのねらいに沿って成果・課題をまとめ、再度ブラッシュアップを図った。3月に次年度の方向性を検討することができた。

③成長ノートは、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。主に行事や節目の時に、自分の取組を振り返り、付けた力を自覚できるようにしたり、次の目標を持たせたりする。目標に向け、自分の達成具合が分かるように、継続して書かせる。8月の研修で、気になる児童や変容の見られる児童の成長ノートを持ちより、「いつ、どんな内容で書かせたか、それをどう活用したか」など、意見交流し、後期の取組につなげていく。

→7月に、成長ノートの進捗状況について、学年部で情報交換を行った。8月の校内研修の中でブラッシュアップを図り、改善へつなげる。

→8月に、成長ノートについて、改善策を整理し、後期の取組につなげた。いつどのような成長ノートを書くか、後期計画を立て取り組むことができた。

11、3月に、成長ノートのねらいに沿って成果・課題をまとめ、次年度の方向性を検討することができた。次年度の参考になるように、「R3年度の実績（いつ、何について書いたか）」、「短いスパンでの振り返り事例」、「数値等による自己評価事例」について学年部ごとにまとめた。

④価値語は、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。8月の研修で教室掲示を持ちより、「どんな場面で生まれた価値語か、それを日常でどのように活用しているか」などについて意見交流し、後期の取組につなげていく。

→7月に、価値語の進捗状況について、複数学年部で実際に教室を巡回し情報交換を行った。8月の校内研修の中でブラッシュアップを図り、改善へつなげる。

→後期は、校内研修の中で学級経営に関する情報交流を適宜行い、常時的なブラッシュアップを図っていく。

→8月に、価値語について、改善策を整理し、後期の取組につなげた。11、3月に、価値語のねらいに沿って成果・課題をまとめ、次年度の方向性を検

	<p>討することができた。次年度の参考になるように、「取組の概要（価値語が生まれた経緯，工夫点，共有方法等）」、「全体写真」，「感化を促すことができた姿」について学級ごとにまとめた。</p> <p>※（必要に応じて）朝の会観察週間（年度当初）に合わせて，学年部において，朝の会観察シートの視点をもとに，共通理解を図りながら改善を図る。状況に応じて後期は，指導教諭等により朝の会を中心とした学級の参観を依頼し，「朝の会観察シート」等により自己評価を行い，改善していくよう指導・助言を受ける。</p>
外部評価	<p>学校評議員や指導主事等を年間2回程度招聘し，状況を確認及び評価していただく</p> <p>→学校評議員や学部教員，教職大学院の方々による視察・観察により，本校全体の学級指導の在り方について指導・助言を頂いた。後期も引き続き，このような機会を活用していく。</p> <p>→四校園協働研究推進委員会の中で，学級経営の取組やブラッシュアップについて報告（11月，2月）。</p>

3. 4つの取組の年間計画

相互に関連付けながら取り組んでいく
(行事・集会での話・学級活動等)

	フリートーク (朝の会)	ほめ言葉のシャワー (朝の会)	成長ノート	価値語
4月	研修で共通理解 実施		研修で共通理解 実施	研修で共通理解 実施
5月	学年内で互いに 見合う			
6月		研修で共通理解 実施		
7月				
8月		一巡目	気になる児童や変容 の見られる児童の成 長ノートを持ちよる	教室掲示を持ちよる
9月				
10月				
11月	研修：各取組の進捗状況の確認・成果・課題			
12月				
1月		二巡目		
2月				
3月				

外国語活動・外国語科について 【総括】

令和3年3月8日

外国語担当 笠木

1. 令和3年度の総論

1年間の取組が積み上げられるよう、5点セットを明確にし、取組を進めてきた。

授業改善については、年度当初から本校の外国語授業について共通理解を図るだけでなく、各学年部で協働して授業づくり(指導案作成, 模擬授業, 互見授業等)に取り組んできた結果、達成指標を上回ることができた。公立校への授業公開については、7月の外国語授業づくりセミナー、11月の外国語セミナーを行い、県内外の先生方を対象に全学級が授業公開を行うことができた。特に11月の外国語セミナーでは、公開授業に加え、事後研の在り方や直山視学官の講演などについて概ね好評な意見を得ることができた。直山視学官からは、昨年度指導を受けた項目(「子どもの実態に合わせたねらいを提示するタイミング」, 「漆塗りの授業の展開の仕方」, 「C児への支援」等)に関して、一定の評価をいただいた。同時に次年度に向け、「児童の思考を促す適度な困りの設定(思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度につながる目的・場面・状況の設定)」「中間評価の在り方」「ALTの効果的な活用」について、ご指導いただいた。

今後、本校の外国語教育について研修などを通して教員間で共通理解を図るとともに、日々の授業を通して授業改善に取り組んでいく。

2. 5点セットに基づく総括

校内研究テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標	積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童を育む授業の推進
重点的取組	① 課題解決へ向けた授業づくり・互見授業の実施 ② 公立校への授業公開
達成指標	① 指導教諭による評価(4段階)が、1・2年目の教諭2.6以上、3年目以上の教諭2.9以上 →指導教諭による評価が、1・2年目の教諭2.95、3年目以上の教諭3.0875と達成指標を上回ることができた。 ② 授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用率が6割以上 →外国語セミナー事後アンケートにおいて、「参考になったこと・使えそうなこと」が「あった」と回答した割合が95.7%と、活用に向かう意見を多く得ることができた。
取組指標	① について ・4月の校内研究において、「Classroom English」, 「4R」, 「外国語科・外国語活動指導のポイント」等、これまでの取組について共通理解を図る場を設ける。 →4月5日の校内研修においてこれまでの取組について説明し、共通理解を図ることができた。 ・5～7月の校内研究において、昨年度指導を受けた項目(「子どもの実態に合わせたねらいを提示するタイミング」, 「漆塗りの授業の展開の仕方」, 「C児への支援」等)について共通理解を図り、外国語部と学年部が連携しながら授業づくりを行う。 →4月20日に外国語部(甲斐教諭)が授業を行い、上記の点について共通理解することができた。 ・年間を通して、外国語部と5・6年部が連携し、教科書「ONE WORLD Smile」を使用した授業づくり(指導案作り, 授業実施)を行う。また、外国語部と3・4年部が連携し、3・4年教材「Let's Try!」を使用した授業のブラッシュアップ(指導案作り, 授業実施)を行う。1・2年についても、外国語部1・2年部が連携し、これまで作成した指導案のブラッシュアップ(指導案作り, 授業実施)を行う。 →3～6年部と外国語部が連携して、指導案作りや授業を行うことができた。今後も引き続き連携しながら指導案作り・授業作りを行っていく。11月の外国語セミナーに向けて、外国語部と各学年部が連携して授業づくり(指導案作成, 模擬授業, 互見授業等)指導案作り授業づくりを行うことができた。 ・5～7月に、①に係って、指導教諭・研究主任・外国語担当・学年部による互見授業を学年1名以上設定し、改善へつなげる。後期に、今年度赴任した教諭による授業公開を行う。

	<p>→夏休み前までに、10名の教諭による互見授業を行うことができた。事後研にも参加し、指導案作り・授業作りの際の改善の視点を取り入れるようにしている。一年を通して学年1名以上の互見授業を行った。指導教諭・研究主任・外国語担当・学年部が事後研へ参加することで、様々な視点で協議することができ、日々の授業改善へ繋がった。</p> <p>・7月の外国語授業作りセミナーでは、外国語部が校内に向け「『漆塗り』の授業展開の在り方(単元構成)」「評価の在り方」に関する授業を公開し、共通理解を図る。</p> <p>→7月に外国語部(笠木教諭)が授業を行い、「『漆塗り』の授業展開の在り方(単元構成)」「評価の在り方」について検討することができた。</p> <p>② について</p> <p>・外国語授業作りセミナー(7月28日)や外国語セミナー(11月2日)において、事前授業や当日授業を公開する。(指導主事等や中学校に声をかける。)</p> <p>→7月の外国語授業作りセミナーについて、中学校等に呼びかけ、事前授業や当日授業の公開を行った。また、11月の外国語セミナー(11月:授業撮影・事後検討会, 1月:動画配信)において、県内外の先生方へ授業を公開することができた。</p> <p>・年間2回程度他校からの視察日を設定し、積極的に視察を受け入れる。また、要請があれば、外部講師として出前授業を行う。</p> <p>→外部講師の要請があれば、時期を見て出前授業を行う。</p>
外部評価	<p>・指導主事等を年間2回程度招聘し、進捗状況を確認及び評価していただく。(指導主事等の招聘は、カリマネや提案授業と連動する)</p> <p>・11月2日(火)に開催の外国語セミナーにおいて、今年度も直山木綿子視学官を招聘し、本校の取組を評価していただく。</p> <p>→直山視学官より、昨年度指導を受けた項目(「子どもの実態に合わせたねらいを提示するタイミング」、「漆塗りの授業の展開の仕方」、「C児への支援」等)に関して一定の評価をいただくことができた。</p>

3. 研修計画

○研修時には、3回に1回程度の頻度で、5分程度の外国語スキルアップ研修を行う。

→夏休み前までに、先行事例をもとに5回のスキルアップ研修を行うことができた。11月のセミナー以降は、直山視学官からいただいた課題をもとに、スキルアップ研修を行った。結果、年間合計8回のスキルアップ研修を行うことができた。

○4月20日に外国語部による提案授業を設定し、本校の外国語授業についてイメージを掴めるようにする。

→4月20日に外国語部(甲斐教諭)が授業を行い、上記の点について共通理解することができた。

○外国語授業作りセミナー(7月28日)や外国語セミナー(11月2日)において、事前授業や授業公開を実施する。(指導主事等や中学校に声をかける。)

→外国語授業作りセミナー(7月28日)について、中学校等に呼びかけ、事前授業や当日授業の公開を行った。またセミナー事前授業において附属中主幹、英語主任より指導・助言をいただいた。

○研修内容

日時	内容	
4月 2日	校内研修全体計画	外国語 年間の取組について
4月 5日	外国語	本校の外国語の取組説明
4月15日	外国語	外国語モジュール研修【益戸研究主任】
4月20日	外国語	外国語部による提案授業・事後検討会・情報交換【5年3組 授業公開】 外国語の取り組みについて
6月22日	外国語	外国語研修・情報交換
7月13日	外国語	外国語科授業作りセミナーに向けた方向性全体提案
7月20日 6月29日	外国語	外国語科授業作りセミナーに向けた指導案審議
7月28日	外国語	外国語科授業作りセミナー【6年3組 授業公開】
8月 2日	外国語	11/2 外国語セミナーに向けた方向性全体提案 フォローアップ研修事前研
8月 3日	外国語	フォローアップ研修事前研 全国指導主事会還流報告
8月18日	外国語	11/2 外国語セミナーに向けた方向性全体提案

9月3日 8月31日	外国語	フォローアップ研修 【5年3組 授業公開】 動画撮影
9月28日	外国語	外国語セミナー指導案審議
10月26日	外国語	外国語セミナープレ授業
11月2日 1月	外国語	外国語セミナー【全学級授業公開】 【6年3組 代表授業公開】動画撮影・事後研 動画公開

4. 小中連携外国語事務局会について

- ・事務局会や互見授業・事後検討会を，年間を通して随時行っていく。
- ・小中共通したアンケートを実施する。

今年度の生活科・総合的な学習の時間【総括】

令和4年3月8日

総合担当

1. 令和3年度の総論

1年間の取組が積み上げられ、より大きな成果を生むように、「重点目標、重点的取組、取組指標、達成指標、外部評価」のいわゆる5点セットを明確に設定し、取組を進めてきた。目標とする2点の達成指標について、前後期を通して、全学級の生活科・総合的な学習の時間の授業を指導教諭の観察授業と兼ねて参観することができた。事後研での意見交換を通して、「めざす資質・能力」を意識した授業の実施につながったと考える。さらに、年間6回の指導主事招聘による研修の積み重ねも個々の授業改善の大きな要因になっている。また、児童のアンケート結果から、「整理・分析」場面における肯定的な回答については、前後期とも目標の数値を達成することができた。しかし、細かく分析していくと授業展開において、通年で探究のサイクルを意識できていたかという点、学級間での差が生じていることも否めない。

来年度は、年度当初の単元作成や進捗具合チェックの定期的な研修への位置付けと、全学級1時間の提案授業を今年度同様に実施できるとよい。さらに、3年生と6年生の単元構想について、入門期であることと中学校への接続期であることを意識し、学年同テーマで単元構想を行う必要性について考えていく必要がある。

2. 5点セット

校内研究 テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標	附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の達成
達成指標	前期：「めざす資質・能力」を意識した授業の実施（通知表の評価と連動） 児童アンケートで肯定的な回答75%以上（R2年度達成指標70%） 後期：前期の分析をもとに「めざす資質・能力」を意識した授業の実施 児童アンケートで「整理・分析」場面で肯定的な回答85%以上
重点的 取組	①学級ごとに探究のサイクルを意識した単元計画（プラン）の作成・実施 ②「概念的な知識」の共通認識と各学級の学級評価規準作成 ③附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の見直し、外部への発信 ④提案授業・互見授業の実施（1人1回以上） ⑤「めざす資質・能力」の達成が見取れる児童アンケートの作成、検討、実施、分析（アンケート実施は6月と2月、3年生以上全学級）
	①学級ごとに探究のサイクルを意識した単元計画（プラン）の作成・実施 …総合70時間プラン作成→随時修正、生活科年間指導計画見直し→修正 …総合、生活科の単元計画は適宜修正済。今後最終修正を行い「令和3年度単元プラン集」を作成。HPで発信予定。生活科単元やスタートカリキュラムについても同様。 ②「概念的な知識」の共通認識と各学級の学級評価規準作成 …4月27日「概念的な知識」について研修。（指導主事招聘）

<p>中間総括</p> <p>期末総括</p>	<p>単元の評価規準全学級作成済，実施中。</p> <p>他教科との関連は年度末に完成。（校内研修カリマネの時間に随時確認中。）</p> <p>…評価規準作成時に設定した、「概念的な知識」について，児童の姿や振り返り等から検証し，「ねらいにせまる子どもの姿」として単元プラン集に掲載。</p> <p>各学級評価規準の最終修正を行い，単元プラン集とともに HP で発信予定。</p> <p>③附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の見直し，外部への発信</p> <p>…R3.4.1 修正（現在は R2.6.1 版 HP 掲載中）</p> <p>…R3.4.1 版でおおむね良いと思われる。HP に差し替えて掲載予定。</p> <p>④提案授業・互見授業の実施（1 人 1 回以上）</p> <p>…1 人 1 回以上の生活科・総合的な学習の時間の提案授業を指導教諭の授業観察に位置づけ，指導教諭・研究主任・総合担当・（学年部）で参観・事後研を実施中。（7 月 21 日現在 3 名終了）</p> <p>…全学級での生活科・総合的な学習の時間の提案授業の参観・事後研を実施。全学級の生活・総合の授業を参観する（される），事後研で意見交換をすることで，互いの授業改善につながった。</p> <p>⑤「めざす資質・能力」の達成が見取れる児童アンケートの作成，検討，実施，分析（アンケート実施は 6 月と 2 月，3 年生以上全学級）</p> <p>…6 月末実施。1 回目を 8 月末から 9 月上旬に実施予定。</p> <p>…1 回目 9 月，2 回目 2 月を実施。（結果は別紙）</p> <p>すべての項目において，肯定的な回答が 90% をこえている。</p> <p>しかし，その中でも昨年度同様「整理・分析」場面についての項目で否定的な回答が多く見られた。原因として，思考ツール等を使った授業展開を行なう機会が増えてはいるが，十分ではないことが考えられる。また，職員間の思考ツール等への研修が行なえなかつたので，授業に取り入れることに躊躇した職員も多かつたのではないかと考えられる。そのため，【4】の質問への回答結果につながったのではないかと考えられる。今後の「整理・分析」場面における思考ツールを活用した授業改善が必要である。</p>
<p>取組指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①については，年度初めの校内研究で単元作り等の研修を行なう。定期的に総合部・学年部で進捗具合のチェック、全体でその都度，成果と課題の交流を行い，おおまかな今後の授業展開を考える。 ・②については，附属小資質・能力一覧表を元に，各学級で単元の具体的な評価規準を作成し，校内研修でお互いに確認しチェック・修正を行う。 ・③については，半期に 1 度，通知表の評価の際に研修で見直しを行う。年度末に生活・総合部会を持ち，修正していく。ホームページ等で発信も行う。 ・④については，1 人 1 回以上の生活科・総合的な学習の時間の提案授業を指導教諭の授業観察に位置づけ，指導教諭・研究主任・総合担当・（学年部）で参観・事後研を行なう。 ・⑤については，総合部を中心に作成しているアンケートを実施し経年比較が出来るようにする。アンケート実施後，担当で分析し授業改善等を検討する。
<p>外部評価</p>	<p>年間 3 回程度指導主事等を招聘し進捗具合を見てもらう （指導主事招聘はカリマネや提案授業と連動していく）</p>

県の重要課題を受けた授業研究について 総括

令和4年3月8日(火)

研究主任 益戸

2. 令和3年の総括

今年度は、令和3年度の改善の重点に沿って、各教科の取組を再度見直し、家庭科を除く全ての教科等において「授業づくりセミナー」「外国語セミナー」として、県内外の学校へ周知・公開することができた。公立学校にモデルを示したり授業作りについて一緒に考えたりする場を設けることができ、本校の使命を果たすことができたと考えます。

また、「授業観察シート」の平均は検証指標の目標を得ることができ、本校職員の授業力を高めることに資することができた。

2. 5点セット

校内研究テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標 達成指標	県による「各教科の改善の重点」を具現化した各教科の授業の構築と授業公開 ① 令和3年度小中学校教育課程研究協議会(12月)にて、レポート提出及び本校作成の単元及び授業プランを、授業公開等を通じて発信 →5～7月の間に授業づくりセミナーを7本(算数、社会、音楽、総合、道徳、特別活動、外国語)実施し、延べ50名の参加者に授業を公開した。 →令和3年度小中学校教育課程研究協議会(12月)にて、 図工、道徳、外国語、特別活動のレポート提出及び実践発表を行った。 →11～2月の間に 外国語セミナー、授業づくりセミナーを8本(算数、体育、国語、理科、特別活動、社会、生活、総合)実施し、延べ53名の参加者に授業を公開した。 ② 指導教諭による評価の平均が3.0以上 →4～7月の授業観察の平均は 3.05点 →8～2月の授業観察の平均は 3.01点
重点的取組	①県による「各教科の改善の重点」の分析、また本校の課題及び具体的な取組を明確にし、それを具現化した授業づくりと授業公開を行う。 →教科部ごとに、県による「各教科の改善の重点」の分析、また本校の課題及び具体的な取組を明確にし、全体で共有した。 →5～7月の授業づくりセミナー(算数、社会、音楽、総合、道徳、特別活動、外国語)における授業公開を通じて、本校作成の単元及び授業プランを参加者に発信することができた。 →11～2月の 外国語セミナー、授業づくりセミナー(算数、体育、国語、理科、特別活動、社会、生活、総合)における授業公開を通じて、本校作成の単元及び授業プランを参加者に発信することができた。 ②指導教諭による授業参観及び、指導教諭による指導・助言をもとに授業改善を行う。 →前期の間に1回実施。12月までに第2回目、3月までに第3回目を実施する予定。 → 指導教諭による授業観察を年間64回(一人平均3.5回)実施。自主的に4回以上実施するなど、意欲的に授業改善を図る姿が見られた。
取組指標	①県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて、各教科で再検討し完成させる。それをもとに、日常的に授業実践していくようにする。 →県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、

	<p>本校における現状と課題，及び改善を図るための具体的な取り組みについて「提案文書」にまとめた。作成した提案文書に沿って日常の授業実践の中で有効性について検証していくようにした。後期も引き続き検証を行っていく。</p> <p>→作成した「提案文書」に沿った単元構想・授業展開について，教科部ごとに検討を重ね，外国語セミナーや授業づくりセミナーにおいて，児童の姿をもとに成果・課題について検証することができた。</p> <p>①研修日程の2回に1回の頻度で，各教科順番に事前研・公開授業・事後研を行っていく。</p> <p>→授業づくりセミナーの中で，各教科順番に事前研・公開授業・事後研を行った。</p> <p>→授業づくりセミナーに向けた事前研は，教科部，学年部，研究主任で放課後に随時（2～3回）行った。後期も引き続き行っていく。</p> <p>→年間を通して，授業づくりセミナーに向けた事前研を，平均2回程度継続して行うことができた。授業者以外に，教科部，学年部，研究主任等複数で議論することにより，様々な視点で指導案を見直し改善へとつなげることができた。</p> <p>①フォローアップ研修で公開する5教科（国語科・理科・生活科・図画工作科・外国語科）以外の教科（算数科・社会科・音楽科・家庭科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動）について，準セミナー扱いとして県下の公立学校へ周知・公開していく。</p> <p>→5～7月の間に授業づくりセミナーを7本（算数，社会，音楽，総合，道徳，特別活動，外国語）実施し，公開授業・事後研を行った。11月2日に外国語セミナー，11～3月までに授業づくりセミナー（算数，体育，国語，理科，特別活動，社会，生活，総合）を行い，公開授業・事後研を行っていく。</p> <p>→外国語セミナーや授業づくりセミナーを通して，家庭科を除く全ての教科等（国語，社会，算数，理科，体育，音楽，図工，外国語，道徳，生活，総合）の授業公開を行うことができた。</p> <p>②授業公開後は全体で事後検討会（指定討論形式）を行うとともに，指導教諭は「授業観察シート」に沿って評価を行う。指導教諭による指導・助言をもとに授業改善に生かしていく。</p> <p>→授業公開後は全体で事後検討会（指定討論形式）を行った。指導案の事前配布（授業日の4日前）や司会者，パネラー等役割の事前周知を行うことで，限られた時間の中で活発な指定討論会へ繋がった。後期も，引き続き同様の形式で行っていく。</p> <p>→指定討論会の質の高まりが見られた。付けたい力を付けることができたか，有効な手立てはどのようなものか，児童の姿をもとに，自身の考えを述べることもできた。</p>
外部評価	<p>学校評議員や指導主事等（県教委義務教育課・大分教育事務所）を年間2回程度招聘し，状況を確認及び評価していただく</p> <p>→学校評議員や学部教員，教職大学院の方に授業を見ていただき，指導・助言を受けた。</p> <p>→大分県教育庁義務教育課後藤指導主事を年間計6回招聘し，生活科・総合的な学習の時間の指導の在り方について，児童の姿をもとに指導いただいた。（全学級授業公開，授業づくりセミナーにおける授業公開）</p>